

1. 平成 20 年 9 月中間期決算の特徴点

正味収入保険料の減収に加え、正味支払保険金および事業費が増加したことにより、保険引受利益は、前中間期間の 91 億円から、1 億円へ減益となりました。

また、資産運用環境低迷の影響もあり、前中間期間比で経常利益が 57.3% の減益、中間純利益が 41.7% の減益となりました。

2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が 4 兆 2,916 億円、資産運用収益が 3,492 億円、その他経常収益が 172 億円となった結果、前中間期間比 824 億円 (1.7%) 減の 4 兆 6,581 億円となりました。

一方、経常費用は、前中間期間比 625 億円 (1.4%) 増の 4 兆 5,503 億円となりました。

この結果、経常利益は、前中間期間の 2,527 億円から 1,449 億円 (57.3%) 減益の 1,078 億円となり、中間純利益も、前中間期間の 1,782 億円から 743 億円 (41.7%) 減益の 1,039 億円となりました。

3. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、自賠償保険の料率引き下げの影響と、主力の自動車保険の減収等により、前中間期間比 977 億円 (2.6%) 減の 3 兆 6,875 億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、台風などの自然災害の影響が少なかったものの、自動車保険、傷害保険等の支払保険金が増加し、前中間期間比 414 億円 (2.0%) 増の 2 兆 1,339 億円となりました。

また、損害率は、前中間期間の 59.9% から 62.9% へ 3.0 ポイントアップしました。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

(3) 保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、信頼回復に向けた社内体制整備を行っていること等から、前中間期間に比べ 552 億円 (9.3%) 増の 6,483 億円となり、事業費率は 2.4 ポイントアップの 34.8% となりました。

(4) 保険引受利益

正味収入保険料の減収に加え、正味支払保険金および事業費の増加により、保険引受利益は黒字は確保したものの、前中間期間比で 89 億円 (98.5%) 減益の 1 億円となりました。

* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び
一般管理費 ± その他収支

4. 資産並びに資産運用の概況

当中間期間末における総資産は 32 兆 5,932 億円で、株価水準が低迷したこともあり、前中間期末の 37 兆 7,034 億円から 13.6% の減となりました。

また、利息及び配当金収入は、前中間期間比 10.9% 減の 3,300 億円に留まりました。

5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、金融庁長官によって早期是正措置がとられる水準である 200% を各社とも上回っております。

協会加盟会社 (26 社)

あいおい損保、朝日火災、アドリック損保、アニコム損保、エイチ・エス損保、SBI損保、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ 24、大同火災、東京海上日動、トア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成20年9月中間期決算概況

